

JRECO 通信

No.21



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構

引き続き、一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構 (JRECO) として、会員の皆様に知っていただきたいこと等を『JRECO 通信』としてお届けします。

I. フロン排出抑制法遵守状況 第1回 JRECO フロン格付けを公表

[第1回 JRECO フロン格付け \(jreco-rams.jp\)](http://jreco-rams.jp)



JRECO は 2022 年 3 月 24 日、ホームページに「東証一部上場 1350 社の環境関連レポート調査 (2021 年度)」として、大企業における法の理解と意識度調査を行いました。企業が Web で公開している統合報告書などは、ステークホルダーに対して企業経営の健全さを知って貰うもので、報告書に記載されている項目は、その企業が重要項目と捉えていることです。この格付け調査は、その報告書にある環境関連レポート部分に注目して、A ランク企業 16 社、B ランク企業 37 社を公表しました。

1. A ランク企業 (16 社) 算定漏えい量、定期・簡易点検状況など適切に記載

イオン株式会社 エーザイ株式会社 株式会社カネカ
セントラル硝子株式会社 大正製薬ホールディングス株式会社
田辺三菱製薬株式会社 DIC 株式会社
デンカ株式会社 東亜合成株式会社 東京応化工業株式会社
南海電気鉄道株式会社 日本通運株式会社
株式会社ファミリーマート 三菱倉庫株式会社
株式会社ヤクルト本社 ワタミ株式会社

2. B ランク企業 (37 社) 法遵守の記載内容に一部不足がある

株式会社朝日工業社 株式会社 ADEKA いすゞ自動車株式会社
ANA ホールディングス株式会社 株式会社エクセディ 株式会社上組 九州電力株式会社 協和発

酵キリン株式会社 株式会社極洋 株式会社クボタ
山陽特殊製鋼株式会社 JCR ファーマ株式会社
シスメックス株式会社 新電元工業株式会社 株式会社住友倉庫
株式会社セブン&アイ・ホールディングス 大同特殊鋼株式会社
宝ホールディングス株式会社 中国塗料株式会社
東京瓦斯株式会社 東京急行電鉄株式会社 東電 HD 株式会社
東邦ガス株式会社 東洋インキ SC ホールディングス株式会社
東洋紡株式会社 凸版印刷株式会社 西日本鉄道株式会社
株式会社日清製粉グループ株式会社 日本シイエムケイ株式会社
株式会社日本触媒 日本曹達株式会社 日立マクセル株式会社
富士通株式会社 三井製糖株式会社 森永乳業株式会社
ユニ・チャーム株式会社 ユニプレス株式会社

※東証一部上場企業 (当時) のうち、1350 社の環境関連報告書に「フロン排出抑制法」遵守状況の有無及び内容を調査した。

※A ランク 16 社は法の規定 (簡易点検・定期点検、算定漏えい量など) が適切に報告されているとして評価した。

※この評価はレポート全体ではなく、あくまでも「フロン排出抑制法」遵守状況報告に特化した調査である。

3. 第1回 JRECO フロン格付けを終えて

今回の調査にあたり、1350 社のホームページから報告書に辿り着き、その報告書で「フロン排出抑制法」の遵守状況をどの程度記載されているか調べました。

最近では、従来の CSR レポートから、「統合報告書」にかわり、財務報告とともに記載する傾向にあります。企業によってはその呼称はサステナビリティ報告書、レスポンシブルレポート、環境報告書、ESG 報告書など様々です。

特に、日本を代表する有名企業の報告書は項目も多岐にわたり、数十ページにもなる構成やデザインも多彩で、人的資源・コストを投資していることが推察できます。

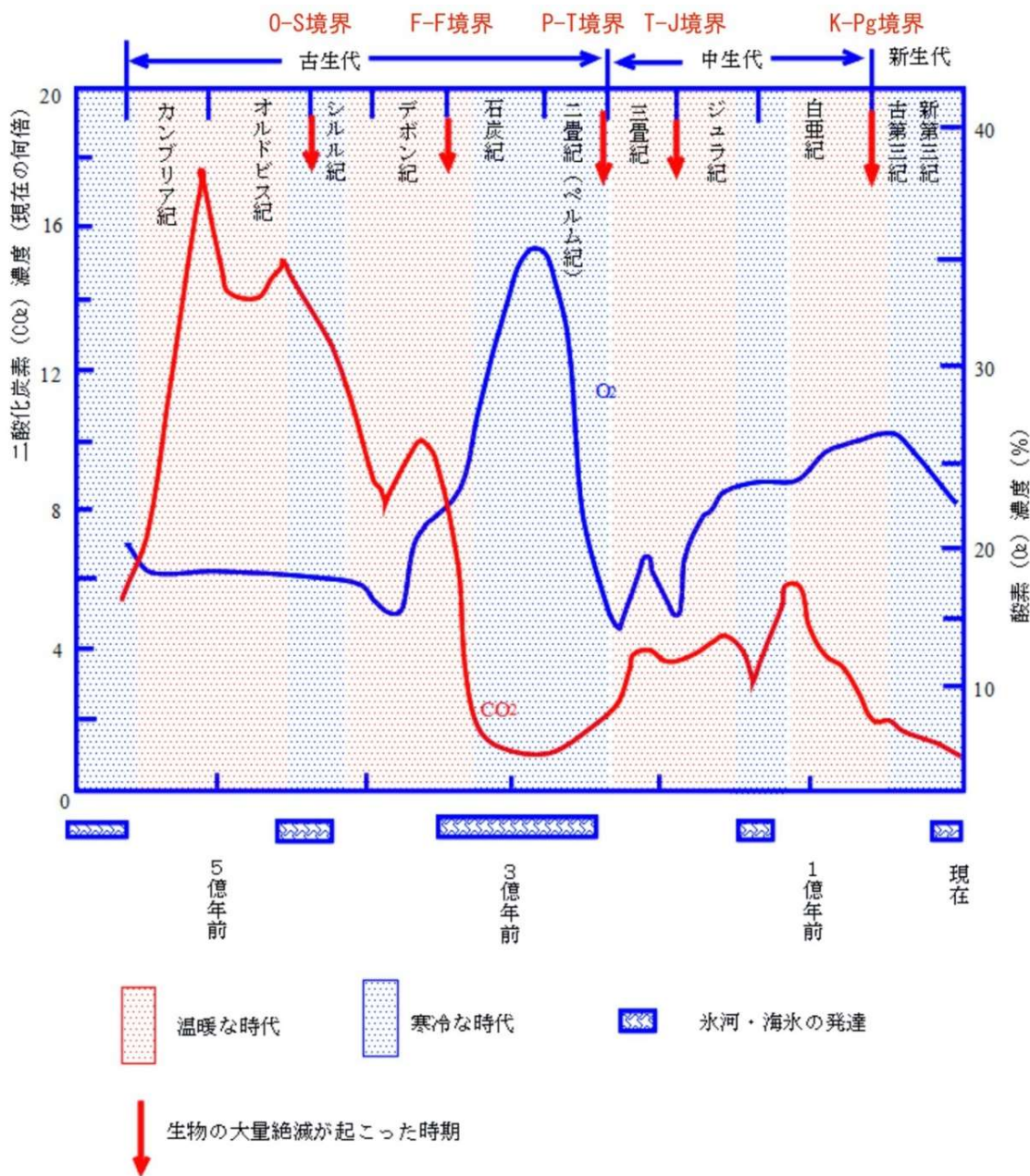
1350社の報告書を調査した結果、全体の52%にあたる703社は環境関連の記載がありました。残りの48%

にあたる647社は環境関連の報告が全くない、あるいは数値的な報告がされていませんでした。特に会社規模が大きくても、IT関連企業、金融、サービス、不動産、放送局などは環境関連の報告が乏しい傾向です。

詳細は <https://reco-rams.jp/ranking/index.html> を参照願います。

II. 地球の歴史

<ペルム紀末の大量絶滅 (P-T境界事変) >



「地球の進化」(岩波地球惑星科学講座13, 1998年)の図6.15より作成。

図1 地球の酸素・二酸化炭素濃度 出典:「大気と海の歴史」山賀進氏Webより

大量絶滅

P-T境界はペルム紀後期の約2億5100万年前(251Mya)に地球の歴史上最大の大量絶滅が起こった。古生代は基本的に温暖な気候であったが、石炭紀中期からペルム紀前半には寒冷化して、南半球に巨大な氷床・氷河が形成されゴンドワナ氷期と呼ばれていた(図1)。古生代の陸上生物は両生類や単弓類であり、この後の時代に続く中生代は恐竜に代表される時代といわれている。具体的には、海中に住んでいた海生無脊椎動物は種レベルでの絶滅は90%以上、属レベルでは82%、科レベルでは50%が消滅された。この中には三葉虫・古生代型サンゴ・フズリナなど古生代に幅広く棲息していた生物種が含まれる。脊椎動物のうち、82%の科が絶滅し、昆虫・植物などの陸上生物もたくさんの種類が絶滅した。この絶滅の規模は恐竜の絶滅で顕著なK-Pg境界よりもはるかに大きかった。

パンゲア大陸での大噴火(スーパーブルーム)

過去6億年の間で起こった最大の噴火活動の一つといわれている(図4)。シベリア洪水玄武岩の噴出(図5)が地球の核付近(2,900km)のマントルからスーパーブルームが上昇して、そのマグマが地表に噴出し大噴火となった。そのスーパーブルームの上昇速度は時速300kmといわれ、地表面の火山活動は1,000kmに及んだ。噴火したマグマの量から推定するとこの噴火活動は数百万年間続いたとされている。人類史(10~20万年)と比べ、この噴火活動の時間はとてつもなく長かった。この凄まじい噴火爆発による火山灰などは地球上を覆い尽くし、台地には太陽の光は届かず急激な寒冷化をもたらした。そして、噴火にともなうハロゲンガスが地球を覆っていたオゾン層を破壊した。さらに、排出した膨大な二酸化炭素は40兆トンとなり、その温室効果で気温が数十度以上高くなり、海底のメタンハイドロイドが大量に蒸発して空気中の酸素と反応し酸素を消費した。この反応で、ペルム紀から徐々に菌類による倒木の分解で酸素が多く消費され酸素濃度が低下していた中で、さらに酸素濃度は10%まで減少した(図1)。この異常な低酸素時代はジュラ紀になるまでの2,000万年間続き、噴火による一時的な寒冷化、低酸素、オゾン層破壊、そして急激な高温化、などが重なり大絶滅が起こったとされている。この絶滅が回復するには500万年、以前の多様性を取り戻すのに1,000万年もの時間がかかった。他の大量絶滅からは回復に数十万年だったのにもかかわらず、この回復が遅れた理由は海面温度が40°Cに達して致死的な暑さだったと、英国リーズ大学の研究がある。

以下、東京大学 大学院総合文化研究科 広域システムが科学系 磯崎行雄教授の資料を基に記す。

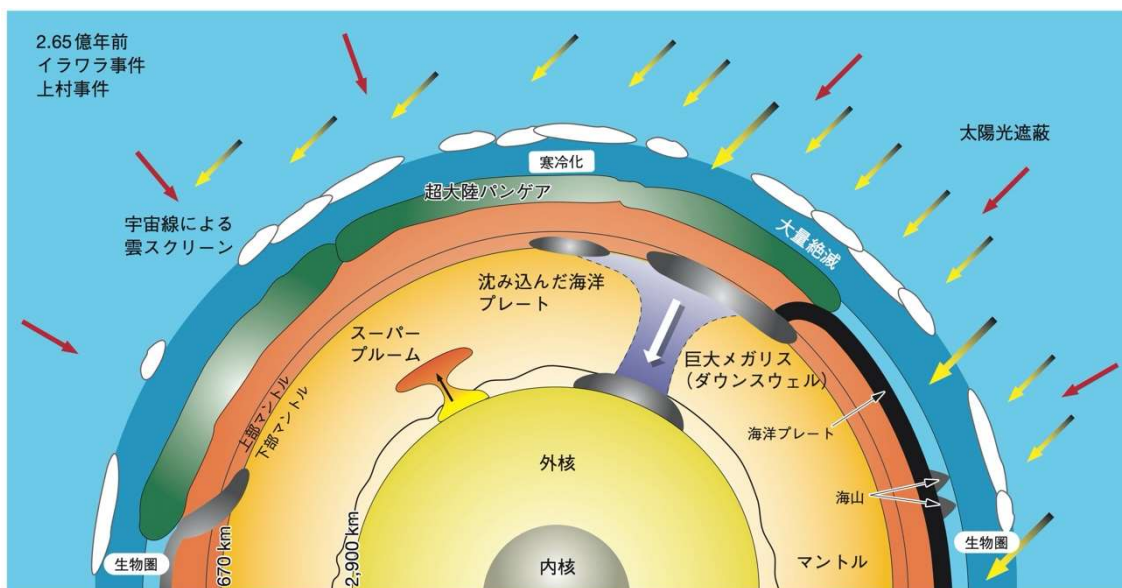


図2 メガリス 出典：磯崎行雄教授 「大量絶滅・ブルーム・銀河宇宙線」より

6億年の中での最大絶滅（P-T境界）事件の約800万年前（260Mya）にもう一つの大量絶滅があり、その規模はP-T境界の絶滅にほぼ匹敵していた。それはG-L境界と呼ばれ、その原因は地球の磁場が頻繁に変化したことが要因と考えられている（磁場の変化の理由は下記）。磁場の乱れにともない、宇宙線や太陽風から生物を守っている磁場が弱まり、電荷を帯びた大量の宇宙線が大気に突入することで大量の雲の発生し、太陽光線を遮蔽した。そのため地球表層が寒冷化して、海水準が顕生代で最低レベルの平均よりも200mも下がり、浅瀬に棲息していた生物たちが絶滅した。磁場の逆転や不安定化が強力なエネルギーをもつ太陽風を遮蔽できなかったことも理由に上げられることだろう。

大陸が移動してパンゲア超大陸として集合すると、以前に大陸の間にあった海洋プレートが沈み込んだ。そのプレートが巨大な塊となって（メガリス）となって、上部マントルー下部マントルの境界付近（約670km）まで一旦落ち込む、塊は構成鉱物の相転移のために集積・滞留した。そして十分に熱せられ相転移後、塊は急に核・マントル境界（約2,900km）まで落下した。落下した塊は核（液体鉄）の周りのマントルよりも温度が低いいため核の温度を急激に冷やすことになった。液体鉄の温度がさがることによって対流が乱れ、磁場の不安定、磁場の逆転を起こした。

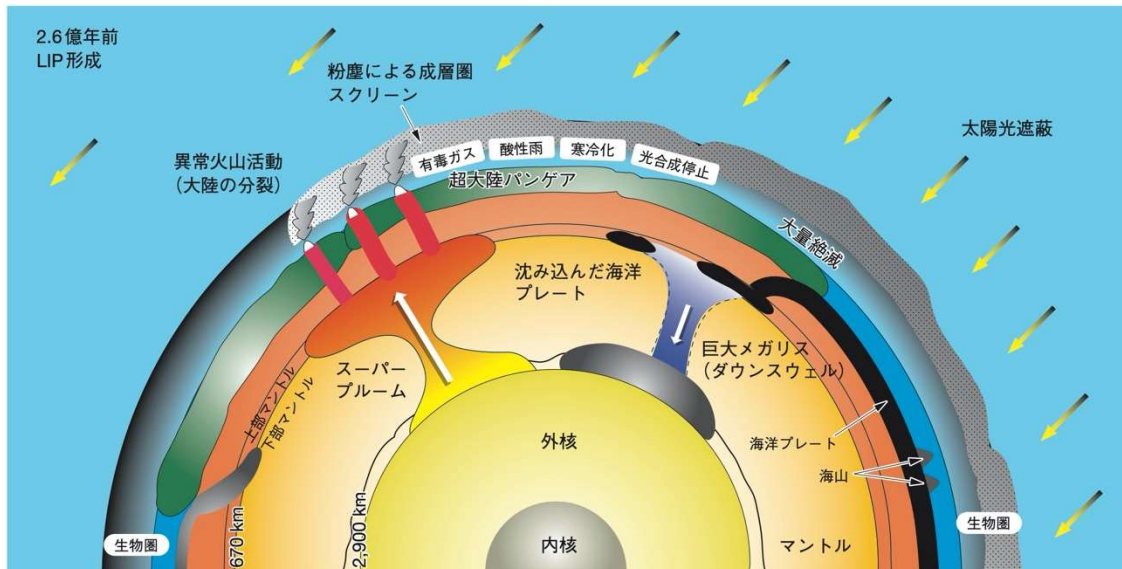


図3 スーパーブルーム 出典：磯崎行雄教授 「大量絶滅・ブルーム・銀河宇宙線」より

メガリスが落下すると、マントル内の均衡を保つため、ほぼ同じ量が核・マントル境界付近から超高温の巨大のスーパーブルームとして地表まで上昇した。これが、大規模なマグマ噴火である。この噴火は通常の火山が地殻の浅い部分からのマグマ噴出によるものとは全く異なり、大規模な巨大火成岩区をLIP（Large Igneous Province）と呼ばれた。それは広大な洪水玄武岩の噴出を伴い、パンゲア超大陸はLIPを境に分裂を始めることになった。

シベリアLIPの噴火口の大きさは1,000kmで、爆発で飛び散った面積だけでも現在の欧州の面積に匹敵する150万平方キロ、マグマの噴出量は1億キロ立方メートルであった。

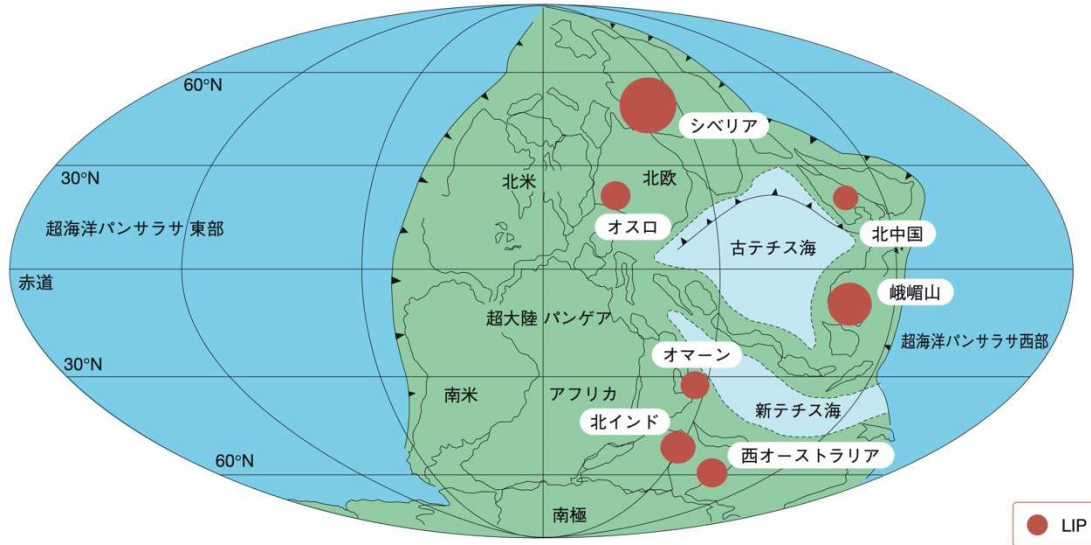


図4 パンゲア超大陸と LIP 出典：磯崎行雄教授 「大量絶滅・ブルーム・銀河宇宙線」より

火山灰による急激な寒冷化を「ブルームの冬」と呼ばれ、核戦争、巨大隕石の衝突が原因で太陽光が遮蔽されることで起る寒冷化を「核の冬」、「衝突の冬」に対応した呼び方となっている。



図5 シベリアのタイミル半島プトラナにある洪水玄武岩流。この岩山は、ペルム紀末期の大量絶滅が起きたのと同じ約2億5000万年前に噴出した巨大火成岩岩石区 (LIP) の一部である。Sobolevらによる新しい研究1は、噴出したマグマに大量の海洋地殻物質が含まれており、そのために膨大な量の火山ガスが発生し、このような環境危機を引き起こしたと説明する。

出典：Nature ダイジェスト Vol. 8 No. 12 | doi : 10.1038/ndigest.2011.111230
 原文：Nature (2011-09-15) | doi: 10.1038/477285a | Lethal volcanism

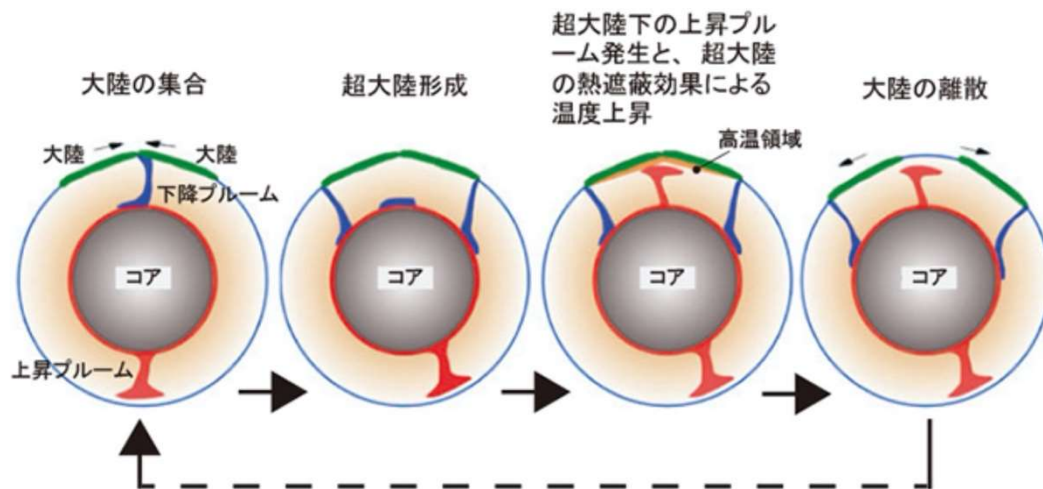


図6 出典：超大陸の上昇ブルームの発生と、超大陸の熱遮蔽効果による高温異常領域の発生のメカニズムを表した模式図 独立行政法人海洋研究開発機構 (2015年2月12日)

図6は、大陸が衝突して超大陸となり、それにより下降ブルームのメガリスが核まで降下して、その反動で上

昇するスーパールームによって大陸が分裂する。これが将来的にも繰り返されることを示している。

<余談>

今から、約2億年後、インド大陸がアジアと衝突し、さらにアフリカ大陸、オーストラリア大陸もそれと衝突合体する。そしてアメリカ大陸も合体して一つの超大陸としてアメイジア大陸が生まれると想定されている。

<つづく>

Ⅲ. 作井正人の米国駐在記

すこし昔の話にはなりますが、私が2003年～2006年の3年間、カリフォルニア州のIrvine市で過ごして感じたことを連載します。アメリカ文化とアメリカ人気質を理解して頂けるきっかけになって頂ければと思います。

<ジョーク>

AMERICA'S MOST INTELLIGENT.....!!!!!!!
アメリカの最も知的な・・・

アメリカでは、ブッシュ大統領は「知性が無い」と評判が良くなかった。そんなブッシュ大統領を揶揄って、社内（米人）で面白いジョークが画像付きでメールを回覧していた。当時、ヒラリー・クリントンも好かれていなかった、読んでみて思わず笑ってしまう。



ブッシュ大統領の手に持つ絵本に注目、逆さです



双眼鏡にキャップが付いたまま

An aircraft is about to crash. There are five passengers on Board, but unfortunately only 4 parachutes.

今にも墜落しそうな飛行機に5人の乗客が乗っていましたが、非情なことに飛行機にはパラシュートは4つしかありませんでした。

The first passenger says "I'm Shaquille O'Neill, the best NBA Basketball player. The Lakers need me, it would be unfair to them if I died". So he takes the first parachute and jumps.

最初の乗客が「僕はNBAバスケット選手のシャクイール・オニールだ。レーカズの為に死ぬわけには行かない」と言って、最初のパラシュートを着けて飛び降りました。

The second passenger, **Hillary Clinton**, says "I am the wife of the Former President of the United States. I am also the most dedicated Woman in the world, a Senator in New York and America's potential future President. She takes one of the parachutes and jumps.

二番目はヒラリー・クリントン。「私は前大統領夫人、世界中で最も著名な女性で今はニューヨーク選出の上院議員、同時に次の大統領候補に最も近い存在です」と言って残っているパラシュートを着けて飛び降りました。

The third passenger, **George W. Bush**, says "I am the President of the United States of America. I have a huge responsibility in world Politics. And apart from that, I am the **most intelligent President** in the history of the country and I have a responsibility to my people not to die". So he takes a parachute and jumps.

三番目はジョージ・ブッシュ。「私は現合衆国大統領です、また世界の平和維持に対して絶大なる責任がある。またそれ以上に、歴代大統領の中で最も**知的な大統領**だ。国民のためにも責任があり死ぬわけには行かない」と言ってパラシュートを着けて飛び降りた。

The fourth passenger, the Pope, says to the fifth passenger, a Ten year old schoolboy "I am already old. I have already lived my life, as a good person and a priest I will give you the last parachute".

四番目の乗客はローマ法王でした。彼は五番目の最後の乗客である10歳の小学生にむかってこう言った。「私はもう十分に年を取りました、またこの年まで良き人間として、聖職者として生きてきて悔いはありません。最後のパラシュートは君が使ってください」

The boy replies "No problem, there is also a parachute for you. **America's most intelligent President has taken my schoolbag...**"

少年は法王にこう言った、「大丈夫、法王のパラシュートも残っていますよ。だって、アメリカの**最も知的な大統領が僕のランドセルを背負って飛び降りてしまったのだから...**」

<Big man>

アメリカに来て感じたことの一つに、こちらの人たちはデブが多いことだ。デブとは、言葉は悪いが、日本ではお目にかかることがないような体型をしている人たちが多く。社内でも、街でも、体が脂肪でパンパンになっている。平均的なアメリカ人は男女にかかわらず太っていると言っていい。あんな体で飛行機の狭い席はさぞかし苦行だろう、しかし両隣に挟まれた時の私のニューヨークまでの5時間は地獄だった。

もともと、アジア人よりも遺伝子的には太りにくい体質とされているのに、あれほど太るのは食べ過ぎによる。会社の行事で、有名ハンバーガーショップの食事会の案内がHRからくると、一週間前から楽しみにしていて、当日は女性たちも3個も4個も食べる…。

さらに、スーパーで売っている食材の安いこと、肉、ジャガイモ等々。特に、肉類の量と値段には圧倒される。だいたい2kg以上のパックが普通に陳列してある、肉の塊を見るとライオンの餌にしか見えない。それが何と16ドル程度だから…大量に買ってゆく。だから、カートは「バカでかい」、日本にあるCostcoのカートがアメリカ標準と思えば良い。

映画では美男美女、ただし、それは映画の中だけのこと。むしろ日本の方がスタイルの良く、きれいな人が多いと思う。もちろん、アメリカにもスタイルのいい美人がいない訳ではないのだが。カルフォルニアと東部ニューヨークなどと比べると、傾向的に西側は太った人が多い。例外はビバリーヒルズ、ここの人たちは美形でスタイルがいい人が多い。何度か行ったレストランのウェイトレスの服装、スタイルも女優のようだった。カルフォルニアは年中暖かいので緊張感がないからだとか誰かが言っていた、多分そうかもしれない。

ファストフードへ米人たちと行くと、飲み放題のコカコーラ(ソフトドリンクは無料)を何度もお替わりして、帰るまでには1リットル以上は飲む。そして、店を出るときに嬉しそうに、**Re-charge**と言ってサーバーで満タンにして持ち帰る。さらに凄いのは、バケツのようなカップを抱えている輩を見かけることだ。

赴任したての頃、昼食に日本食(Japanese)を誘われた店でとても驚いた。客の大半は米人(ローカル)だが、メニューは全て和食で人気の店だった。私が秋刀魚定食を頼んだら、なんと秋刀魚が2尾、豆腐半丁、煮物、味噌

汗が出てきた。今まで、こんな定食にお目にかかったことがない。ローカルには秋刀魚が 1 尾では物足りないの
だろう。当初は食事の量に圧倒されていたが、徐々に順応した結果、みるみる体は大きくなってしまった。

彼らと一緒にいると、私も安心してしまふ。その油断が命取り、東洋人は遺伝的に太りやすい体質、半年後に体
重計を購入したら、なんと 20kg も増えていた。周りが Big man だらけなので気付かなかった。Richard に「こ
こにきてから太ったよ」、彼は笑顔で「Sakui-san, you are skinny!」だって。やはり、食べ過ぎと運動不足が原
因だろう。車通勤なので、事務所に着いて席に座るまで、おそらく 30m 程度しか歩いていない、こんな毎日だっ
た。

さすがに、米人たちも太った人を指して Fat man とは言わず、Big man と言っていた。



ディズニーランドには特に Big man たちが多かった



写真の取り置きがなかったのでネットで探したら出てきた。

このような Big サイズのカップを持ちストローを咥えて闊歩している姿胡亂に珍しくない。もっと大きなカップを抱えている連中もいた、だから肥満が加速する。

ソフトドリンクは砂糖の塊、こんなに飲んだら体には良い訳ない。

<日本食レストラン (Japanese) >

Irvine 市の近辺には、日本食レストラン (Japanese) は所々にあった。一方、LAX 空港の隣にある Torrance 市には米国トヨタ自動車販売会社 (2014 年にテキサス州へ移動)、ニッサン (2007 年テネシー州へ移動) が本
社を構えていたので、当時、日本人の数はカルフォニアで最大だっただろう。それで、日本人向けの店が集中してい
た一角があり、その一角はまるで日本のようだった。駐在する前に来たことがある “寿司屋” には、とうとう帰
国まで行けずじまいだった。Irvine にいると、Torrance まで食事に来るのは遠い、どうしても近くの Japanese

となる。ただし、ここではローカルたちが主客だった。



Irvineにあるうどん、そばの店Fukada、店内はローカルに人気、昼食時などは30分待ちだった

ニューヨーク、ラスベガスなどの **Japanese** は東京にある高級店、いやそれ以上に構えはゴージャスな店も多く、ローカルでどこも満員だった。店員や板前は日本人で清潔感とキビキビとした態度が好まれてもいるのだろう。ただし、我々が慣れている味とはチョット違う、ローカルに合わせている。当然ながら、高級店での値段は安くはなかった。

Irvine では、客はローカルが8割、日本人が2割程度の割合だった。味も店によっては日本と遜色ないところもあり、値段もリーズナブルな店が多かった。

和食が人気なので、日本スーパーに米人たちが食材を買いに来ているのはよく見かけた。日本酒の人気も上々で、ニューヨークなどでは地酒バーがあり、地酒にはうるさいローカルがいるとのこと。大関などの酒造メーカーも米国で日本酒を増産するとの新聞報道があった。当時、ロサンゼルスタイムズに居酒屋特集が大きく写真付きで取り上げられ、居酒屋は人気だった。

Japanese には米人経営の店、中国人、韓国人が経営する店、そして日本人経営であるが客の大半がローカル、あるいは日本人経営で客の多くは日本人など様々だった。さらに、客も経営者も日系人という **Japanese** はリトル東京にあった（後出）。

鮮度のよい美味しい魚に巡り逢うことはニューヨークの高級店でも滅多に無かった。Irvine のある店も、鮮度がいいと思う日とチョット(?)と感じるときがあった。ある時、当時の社長がその店を最良にして、そこで会社幹部の会食が開かれた。その日の刺身は(?)だった。隣に座っていた米人幹部が「Sakui-san、生魚がこんなに美味しいとは思わなかった」と話しかけてきた。心の中で、初めて食べた刺身がこんな味だったら、私なら二度と生魚は食べなかったと思いながらも、せっかとお上手を言ってくれたので笑顔で頷いた。何でも店主の親戚が伊豆にあるそうで、買い出しに日本によく帰ると聞いていた。それで、米国に戻ったばかりは鮮度がいいが、日が経つと味は(?)となる。海は世界中に繋がっているのに、牛や豚などと違って海産物の検査はないと聞いていた。

私が魚の鮮度が良いと思った店は、ラスベガスの高級ホテルにある **Japanese** ではなく、中心地から車で10分程度の場所にある **Osaka** (4205 W Sahara Ave, Las Vegas, NV 89102)、ここがお勧め。モールに自由の女神像があるのですぐにわかる。日本の居酒屋と同じ雰囲気、特に魚が美味しかった。この **Osaka** はニューヨークやラスベガスの高級店よりも美味しく値段もリーズナブルだと思う。ネットで調べてみたら、現在も、自由の女神ともども健在だった。家族とも何回か行ったが、いつも大満足だった。ある時、中村紀洋選手（近鉄時代は確か髪を金髪に染めていた）が隣のテーブルで仲間と酒を飲んでいて、その時の彼はドジャーズから、ラスベガス・フィフティワウンズへ移籍したばかりの頃だった。



外からの印象では、とても美味しい店とは分からない。教えてもらわないと無理

クリスマス休暇、ニューヨークへ家族で出かけた時、夕食は迷わずに **Japanese** とした。高級店にはとても行けない、事前に聞いていた「焼き鳥」の店を予約した。日本人が多いせいだろう、カルフォニアとは違って店内はまるで日本、味も良かった。店の外には、予約のない客が列をなしていた人気店だった。隣に座った日本人によると、ニューヨークは東京と同じく公共交通機関（地下鉄など）での通勤が多く、何でも仕事帰りに同僚と居酒屋で一杯があるようで、これは米人たちも同じらしい。カルフォニアではできない、仕事帰りの一杯は羨ましい。このあたりは、日本人が多い、新橋にあるような居酒屋が何軒かあった。

Japanese での傑作な思い出は、長女が友達を連れて遊びに来たときだった。ラスベガスからグランドキャニオンを旅行して、**Flagstaff**（グランドキャニオン、アリゾナ州）に宿泊した。受付の女性に近所の **Japanese** を紹介してもらった。なんとその時、彼女が仕事の合間に勉強していたのは日本語だった。話を聞くと、アリゾナ大学の学生で日本語専攻、受付のアルバイトをしているとのこと。笑顔が可愛い女子大生だった、こんな田舎（失礼）でも日本語に興味がある学生がいるのだと感心した。

彼女に教えてもらった店に行くと、まるで外観も日本の居酒屋で外まで民謡が聞こえていた、そして提灯と暖簾、これほど期待して、店に入ってビックリ。客はローカルだらけで、金髪の兄ちゃんがハチマキ姿で寿司を握っていた。日本人 6 人がテーブルに座り、オーダーを考えたが、あの兄ちゃんの寿司は期待できそうもなかったのので鉄板焼きにした。**Flagstaff** の田舎町では日本人など滅多にいないのだろう、我々のテーブルで鉄板を焼くとき本物の日本人の前で緊張したのか、兄ちゃんの手が震えていた。



美味しい店といえば、Costa Mesa 市（隣の市）にある焼肉の ANJIN（日本風）（3033 Bristol St, Costa Mesa, CA 92626）は美味しい、値段も安く、家族が大好きな店だった。日本で評判の焼肉屋と勝負しても、この店は上位ランクに入るだろう。ネット確認したら、今も順調に営業中だった。この店は 40 席ほどの店で、珍しく予約を取らない方針だったので、いつも 1 時間は待つことは覚悟していた。ここも、客の半数以上はローカルだった。

ANJIN は、エンジェルス球場からも近く（車で 15 分程度）のため、長谷川選手、イチロー選手がよく来ていた。2006 年の WBC の韓国戦で負けた時、イチロー選手が日本選手を元気づけるため、焼肉に連れて行ったと日本のスポーツ紙で報じられていたので、ここだろうと思った。後日、店員に聞くとイチロー選手たちは 1 時間半以上も店の外で待っていたとのこと。天下のイチロー選手でも特別扱いはしない店なのだ。そして待っても、空かなかつたので他にいったとのこと。続けて、その後イチロー選手と松井選手と一緒に来たとも言っていた。おそらく、この時も二人は外の駐車場で 1 時間程度は待っていただろう。



<リトル東京>

リトル東京は、日系人たちが集まる場所だというのは昔のことだったようだ。彼らは、大戦中にアメリカ政府から全て奪われ、収容所に入れられが塗炭の苦しみを経験した。そして、戦後に再びロサンゼルスで努力して成功されている方々が多い。高度成長時以降に会社命令で来た我々とは志が全く違う。そのリトル東京は 1983 年に私が訪れた時とは変貌していた。おそらくその当時、日系人社会はまだ戦後を引き摺っていたのかもしれない。



刑事コロンボで有名なロサンゼルス市街が見える、昭和を思い出す「今川焼」1983年



1983年リトル東京で撮影した写真。この一角は日本の昭和30年代の雰囲気、日系人たちが肩寄せ合ってフードコート広場に集まっていたように感じた。何かの集会だったのか、みんな笑顔で楽しそうだった。



それから20年後のリトル東京、人通りも少なく雰囲気が変わってしまった。2003年



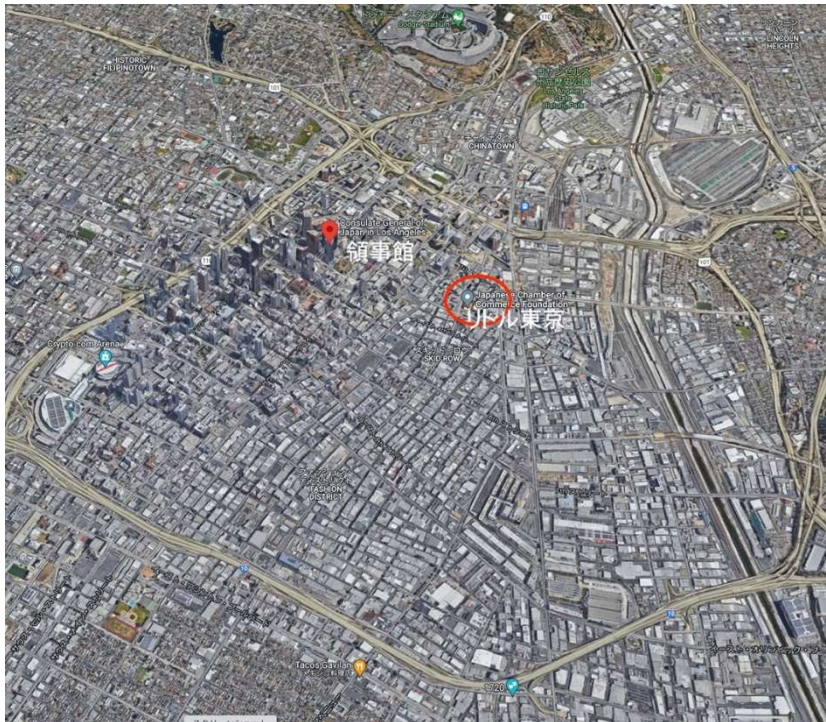
当時、人で溢れていたフードコート広場も再開発され商業ビル・レストランに変貌。2003年

1983年から20年後のリトル東京、当時は人出があり活気があったフードコート広場は整理されてビルになり、小綺麗な店舗に変わってしまった。この20年での変わりようは凄まじい。このあたりは、刑事コロンボでも有名なロサンゼルスを中心部、治安は良くない。当時の日系人たちは郊外の街に引っ越したのだろうか。戦前からアメリカ国籍を取得して苦勞してきた同邦とその子孫たちが、この地でこれからも成功し続けて欲しいと何とも複雑な気持ちだった。

<パスポート更新>

パスポートの有効期限が迫り、ダウンタウンにある領事館に行く必要があった。今月中に領事館に行く話をしたら、EdとMargieから「あの地域は危ないよ」、「駐車中に車のガラスを割られるよ」とからかわれ、冷やかされた。

Irvineから遠くて面倒臭さかった、とうとう領事館へ行ったのは期限ギリギリの11月末だった。ダウンタウンを取り囲んでいる高速の車線は狭く、首都高並で合流に苦勞した。領事館は新しい高層ビルの17階にあった。ロサンゼルスは東京やニューヨークと比べ狭くビルの数は少ない、映画に出てくる華やかなロサンゼルスとは全く違っていた。



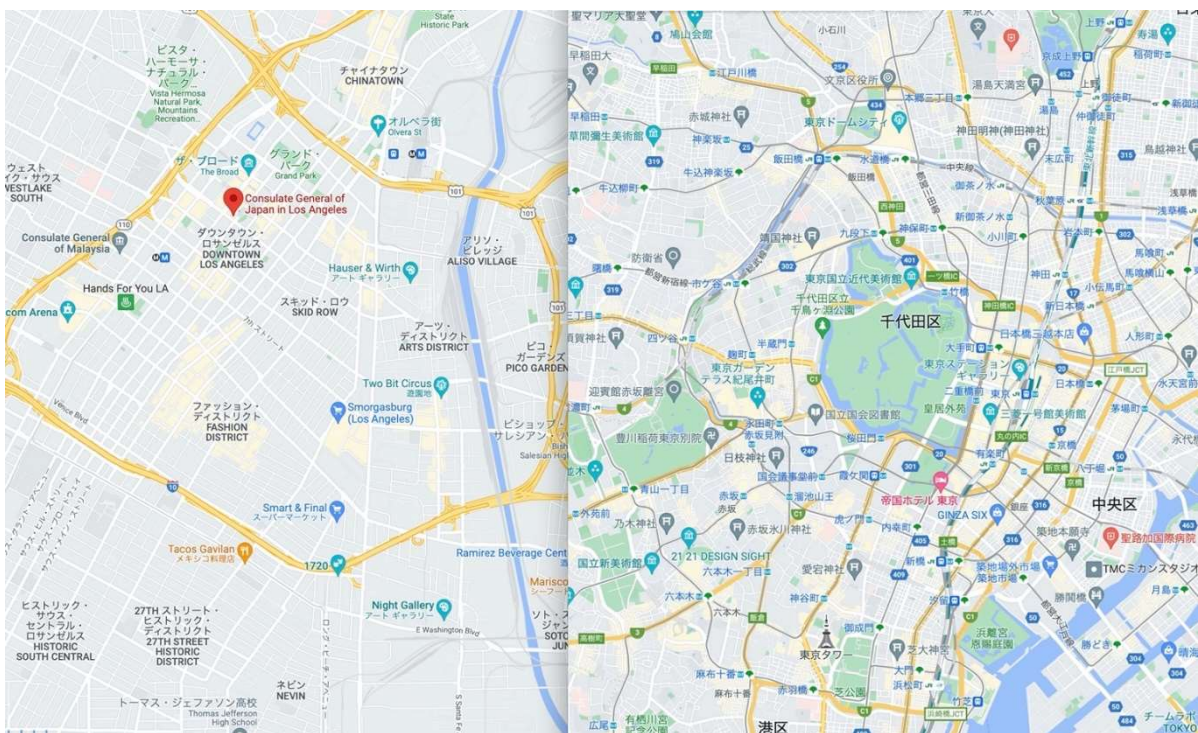
ロサンゼルスと言うと、アメリカの大都市の一つと想像するだろうが、ダウンタウンはそのイメージには当てはまらない。

日本領事館がある周辺は、一応のビジネス街となっている。しかし、ビルの数も少なくニューヨークやシカゴ、サンフランシスコなどとは違ってビル街を観光するような場所ではないことが航空写真で伺えるだろう。

主な企業はこのダウンタウンに拠点をもたずに、周辺の市などに偏在するのがロサンゼルスの特徴といえる。

リトル東京は領事館からも遠くないところにあり、ロサンゼルス市庁舎に隣接しているため、以前はこのあたりが市の中心だったのだろう。

航空写真を見る限り、高速道路に囲まれたエリアには緑もなく、中心部が華やかな他の都市とは違う。写真上部に見えるのがドジャース球場。



ロサンゼルスと東京を同じ縮尺で比較。ダウンタウンは丁度、外堀の中の東京程度の広さ

更新手続きに必要なものは、在留邦人登録、写真2枚、住んでいる住所の証明（公共料金の請求先住所が記載されている請求書、住民票の無い米国では学校の学区登録でも同様な請求書が要求された）、現在のパスポート、申請書類。一方、ネバダ州など遠隔地に住んでいる邦人には即日発行してくれるが、近隣の住人は一週間後に再度受け取りに来なくてはならなかった。脅されていたが、昼間だったので、窓ガラスも割られず問題なかった。



領事館が入居している高層ビルと領事館の入口

To be continue 次号へ続く

お楽しみいただけましたでしょうか？

JRECO 通信は不定期刊行ではありますが、次回もご期待願います。

JRECO 通信のバックナンバーはホームページに掲載中

https://www.jreco.or.jp/jreco_news.html